



借金を背負わせる「教育」が少子化の原因

下の表を見て下さい。かつて国立大の学費は私大の約1/8。経済的に厳しいと、国立大を目指していた。

「私大の学費が高い」と云う声に自民政権がとった政策は「私大への補助」ではなく「国立大の値上げ」だった。

この為、卒業時には五百万円もの利子付き奨学金と云う借金を負った学生もいる。

就職しても将来の為に貯金どころか借金返済に追われる状態。これでは結婚して家庭を持つ希望も持てない。「少子化」は政府の政策の結果なのだ。

自公政権は「大学教育は受益者負担」と言うが、そうだろうか？

教育は未来への投資

明治以前の寺子屋以来、国民が教育を受けた結果、国民の知的水

50年間の学費の値上がり

年間の学費	国立大	私大	国立大/私大
1971年(万円)	1.2	9.1	1/7.6
2021年(万円)	53.6	93.1	1/1.7
2021年/1971年	44.7倍	10.2倍	

準が上がりの経済が進展して来た。「教育の受益者」は国民全体なのだ。

高い学費を払う為に勉強もそこそこアルバイトに精を出さなければならぬのは社会の損失。

欧米各国が学費を無償にしているのは将来への投資。

イタリアでは高校を卒業すれば誰でもローマ大学に入学出来る。

しかし、しっかり勉強し自分の考えを言えないと単位は取れず、卒業出来ない。入学すれば大抵卒業できる今の日本とどちらが良いか？

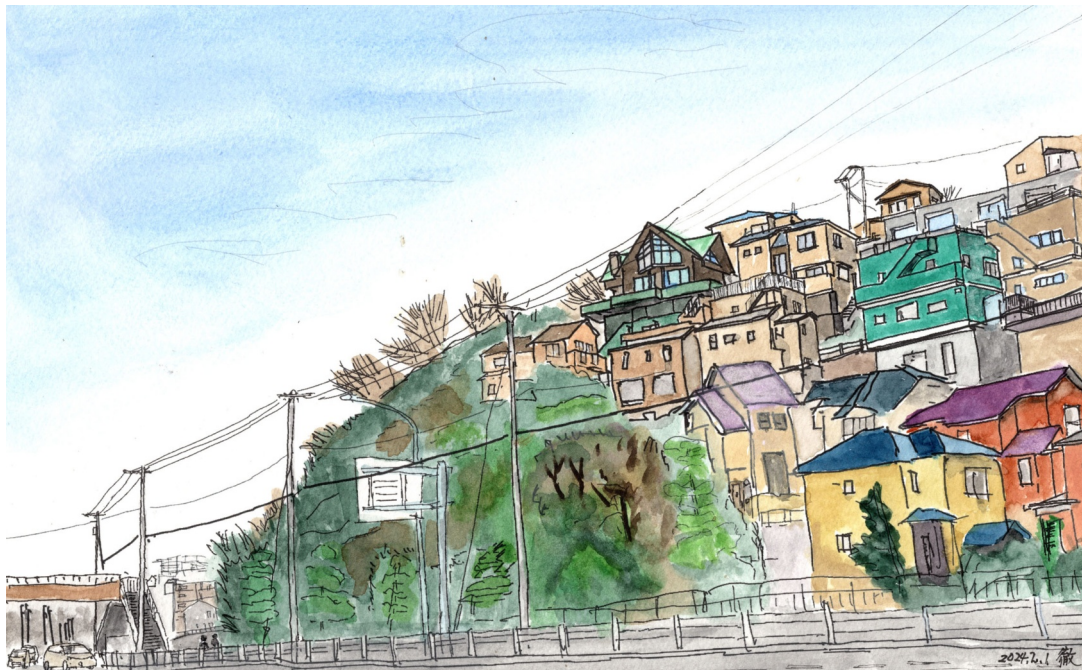
無償化した大学でしっかり勉強すれば少子化も解決するのでは？

あなたはこう思われますか？

東海道から見上げると

横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町 岩崎ガード傍

二〇二四年二月



横浜は標高五〜六十mの台地と低い平野から成っている。その台地を沢山の川が削り「谷戸」と呼ばれる谷を刻んでいる。

昔の東海道は谷戸への上り下りを繰り返していた。その台地を削りほぼ平坦な現在の東海道となった。

台地を削った場所の一つがこの場所。保土ヶ谷から駅伝の難所「権田坂」の方向に少し歩くと着く。絵の中央近くに三角の大きな窓のあるしゃれた建物がある。そこと東海道との標高差は四十m近く。つづら折りの道をたどれば着く。

こうした谷戸を上がる道は隣の谷戸と繋がっていない事が多い。すぐ近くの谷戸に、一度坂を下りて登らなければならぬ。

斯くして浜ツ子は足が鍛えられる。

来週は休刊します

